



月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

May 2019 5

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2019年5月1日発行(毎月一回発行)第737号

● 出会い・本・人

サンタクロースの部屋 柳下明子

● 特集「天皇制とキリスト教」を学び直すには

この三冊！ 戒能信生

● 本・批評と紹介

加藤常昭編 いつも喜びをもって 及川 信

A・E・マクグラス著／佐柳文男訳

C・S・ルイスの読み方 釘宮明美

上沼昌雄著 怒って神に 千葉 恵

平塚敬一著 老教師の聖書レッスン 水口 洋

久松英二著 古代ギリシア教父の霊性 阿部善彦

片柳弘史著 始まりのことは 望月麻生

ナイム・アティーク著／岩城 聰訳 サビールの祈り 山口里子

「本のひろば」バックナンバー表

既刊案内

書店案内

牧師・ユースバスター・
CS教師必携!



若者に届く説教
大嶋重徳
礼拝・CS・ユースキャンプ

「説教とは何か?」「説教原稿をどのように作るのか?」という基本から、説教の構成や語り方、若者との信頼関係の築き方まで。イエスが現れたエマオ途上の物語から、説教に至る「途上」の大切さを丁寧に解き明かす。

大嶋重徳

若者に届く説教

礼拝・CS・ユースキャンプ

● A5判・112頁・本体1,200円



H・J・クラウク 住谷眞訳

ヨハネの第二、第二の手紙

EKK新約聖書註解XXIII/2

宗教史的背景を徹底的に踏査し、歴史批評的な方法を駆使して著述された、今日における最高峰の学問的註解。

● A5判函入・288頁・本体6,000円

タイム・ステッド 柳田敏洋／伊藤由里訳
英国国教会司祭がマインドフルネスと信仰、そして実践までやさしく解説する1冊!

神のためにスペースをつくる

マインドフルネスと キリスト教の霊性

● 四六判・246頁・本体2,000円



關岡一成

クリスチャン・サムライ 海老名弾正

人になれ人、人になせ人

● 四六判・170頁・本体1,000円
武士道・儒教の伝統を踏まえてキリスト教を受容し、普遍的「人間の完成」を求めて真摯に生きたキリスト者としての海老名を生き生きと描き出す。

海老名弾正関係資料

關岡一成

● A5判・320頁・本体3,200円

海老名弾正はプロテスタント・キリスト教の初期の代表的な指導者である。しかし、選集・全集がないこともあり、多くの誤解も生んできた。海老名に関する資料を網羅的に取り扱った渾身の力作。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は (e-shop 教文館) へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



出会う・本・人

サンタクロースの部屋

柳下明子

『サンタクロースの部屋』（松岡享子著、こぐま社）は、子どもと本をめぐるエッセイですが、わたしにとってこの本は前書きの言葉の故に重要な本となり、数々の転居に伴う断捨離をかくぐつつききました。それは自分の子育てや、子育ての悩みを私に打ち明けてくれる人や、また自分自身が様々な場所で出会う子どもたちに向かう時の大切な柱を通してくれた本です。

著者は、幼いときにサンタクロースの存在を本気で信じたことができた子どもは、心の中にサンタクロースを収容する空間をつくりあげることになる、といいます。サンタクロースそのものは、その子の心の中から出て行ってしまふときが来るかもしれないけれど、サンタクロースが占めていた心の空間はその子の心の中に残るのであり、この空間がある限り、人は成長にしたがって、サンタクロースに代わる新しい住人をそこに迎え入れることができるのです。この目に見えないものを信じるという心の働きが、人間の精神生活のあらゆる面でどれほど重要なことか、と著者はいい、のちに崇高なものを宿すかもしれない心の場所が、実は幼い日にサンタクロースを住まわせることよつてつくられるのだと言います。児童図書館に関する専門家である著者にとつて、この部屋は何もサンタクロースよつてのみつくられるわけでは

ありません。魔法使いでも、妖精でも、鬼でも仙人でも、はなしをする動物でも、空飛ぶくつでも、打ち出の小槌でも、幼い心に不思議の住む空間をたつぷりとつてあげることが大切だといいます。

わたしが幼いときには、こびとの出てくる昔話の絵本を繰り返し繰り返し読むことに始まり、小学校に入るとトルストイの民話になり、やがてナルニアを読みふけり、指輪物語に熱中したことも、自分の中にサンタクロースの部屋をつくっていたのだと分かりました。我が家の子どもたちがハリーポッターやパーシー・ジャクソン、アルケミストを読みふけていた時期、彼らがサンタクロースの部屋を建設しているのだと思つて眺めました。

子どもが自分の中に大きなサンタクロース部屋を建てることは、その子どもの生きる力につながることでしよう。わたしは児童図書館学の専門家ではありませんから、サンタクロースの部屋をつくるために、たくさんのお話を紹介すると言ふよりも、たつたつ大きな物語によつて大きな部屋を建てられることを願つていきます。

（やなした・あきこ）日本聖書神学校教務部長代行、日本基督教団武蔵野緑教会牧師

「天皇制とキリスト教」を学び直すには ▼この三冊！

戒能信生

(かいのう・のぶお…日本基督教団千代田教会牧師)

この四月に天皇の代替わりが行われ、

平成天皇の退位と新天皇の即位式が執り行われます。そして一月にはれつきとした神道儀式である大嘗祭が、国の「公的行事」として実施されます。元号も代わり、さぞかし盛大な国家イベントが繰り広げられることでしょう。新聞やテレビなどのマスコミが大騒ぎをすることは目に見えています。この事態に対して、私たちキリスト者はどのような姿勢で臨むべきなのでしょう。この難問について参考になる書物を三冊選びました。

を三冊選びました。

この国のキリスト教出版において、キリスト教と天皇制に関する文献や資料集は驚くほどたくさん公刊されています。私自身の貧しい本棚からでも、探してみると三〇冊をはるかに超えるのです。戦前・戦中の教会が、神権天皇制のもと神社参拝や国民儀礼などの強制に苦しめられてきたこと、その反省に立って特に一九六〇年代から、キリスト教会を中心に靖国神社国営化反対運動を果敢に展開してきたことが背

景にあります。その意味で天皇制の課題は、この国のキリスト者にとって避けることができない課題と言えます。
NCC大嘗祭問題署名運動センター
編『キリスト教と天皇制』

今から三〇年前、一九八九年一月に昭和天皇が死去し、一九九〇年一月に平成天皇の大嘗祭が執り行われました。新憲法下での初めての代替わりの経験でした。その際のキリスト教界の大嘗祭に対する反対運動や抗議活動の全容がこの一冊に収録されています。NCC所属の各教派だけではなく、カトリック教会も、またJEA(日本福音連盟)傘下の福音派系の諸教派も加わって、すなわちこの国のはほとんどすべてのキリスト教会を挙げての取り組みの記録です。大嘗祭に国費を使用すること、それは憲法に定められた信教の自由に反すること、そして天皇の政治利用等の問題を理由として、大嘗祭

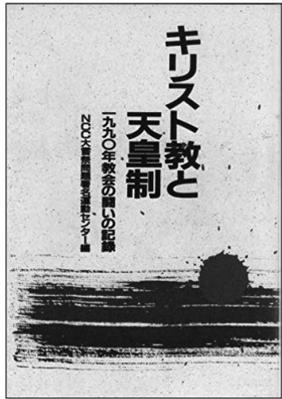
に反対する署名活動が展開されました(最終的に寄せられた署名は約一八万筆)。本書には、各教派から発表された大嘗祭に反対する声明や宣言もほとんどすべて収録されています。そこでは、戦前の神権天皇制への批判にとどまらず、現憲法下の象徴天皇制についての疑問や批判にまで及んでいます。各教派で取り組まれた様々の集会、アジア各地の神学者を招いて行われた天皇制をめぐる国際シンポジウムとそのステイトメント、さらに大嘗祭の時期に合わせて実施された一〇〇時間断食行動、全国各地で断食に参加した二〇〇〇名近くの一人一人の氏名までが克明に記録されているのです。その意味で、一九九〇年段階における「キリスト教と天皇制」をめぐる取り組みとその論点が盛り込まれていると言えるでしょう。今回の大嘗祭に当たっても大いに参考になるはずです。

「本書は、その副題が示す通り『一九九〇年 教会の戦いの記録』ではありますが、それは決して勝利の記録ではありません。むしろ敗北の記録であり、痛々しい挫折の記録であるかもしれません。しかしながら、戦おうとしてなお不十分であった敗北の記録ではあると思うのです。問題を回避して、自らの保身と維持を図ろうとするものの記録ではありません。そこに、たとえ敗北と挫折の記録であっても、敢えて歴史のなかに刻み込む意味と価値があると考えています。」(「あとがき」から引用)

土肥昭夫『天皇とキリスト』

この国の多くの神学者が、戦後になっても天皇制についてほとんど口を噤む中で、教会史研究の立場から積極的に発言を続けて来た著者の天皇制に関する歴史研究の集成です。著者は、同志社大学神学部教授として日本キリ

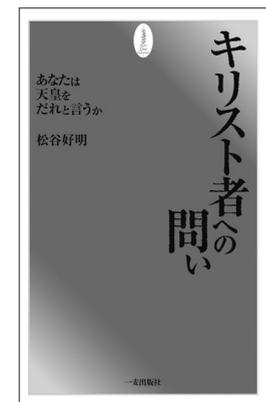
スト教史を担当し、また富坂キリスト教センターにおける五期にわたる「キリスト教と天皇制に関する共同研究」の座長を担っています。またそれ以外の著作の中で天皇制に関する諸研究も含めて、著者没後、妻の敦子さんによって丁寧編集されています。明治憲法発布以前にまで遡って近代天皇制の発端を掘り起こし、その後の絶対主義天皇制が確立していく過程、内村鑑三や植村正久、柏木義円など、当時のキリスト者たちがそれにどう対していったのかの個別研究、明治後半期に至って日本のキリスト教会が全体として神権天皇制を受容しそれに包摂されていく経過、そしてその帰結として絶対主義天皇制に屈服していった戦時下の教会の実相を詳細に追跡しています。その目配りは、教会だけでなく、キリスト教主義学校にも及びます。本書には近代日本における「天皇制とキリス



『キリスト教と天皇制』
一九九〇年 教会の闘いの記録
NCC大嘗祭問題署名
運動センター：編
ヨルダン社
1991年刊
四六判443頁
2800円（税別）
（現在絶版：古書にて流通）



『天皇とキリスト』
近代天皇制と
キリスト教の教会史的考察
土肥昭夫：著
新教出版社
2012年刊
A5判534頁
4700円（税別）



『キリスト者への問い』
あなたは天皇をだれと言うか
松谷好明：著
一麦出版社
2018年刊
四六変型判194頁
1700円（税別）

正しい説教』と『聖礼典の正しい執行』
によって宣教と教会の形成に邁進すべ
きです。
しかし伝統の単なる墨守で済ませる
のではなく、改革された教会として常
に御言葉によって改革され続けるため

に、熱い祈りと、聖書と神学の真剣な
学びに裏打ちされた熱心な宣教こそが、
天皇（制）の呪縛から真に人々を解放
し、一パーセントの壁をうがつこと
できる唯一の手立てであると私は確信
しています。考えてみれば、私たち自

身がそのようにして御言葉を伝えてい
ただいたお陰で今日があるのではない
でしょうか。」（第一章「キリスト者
にとって天皇とは」からの引用）

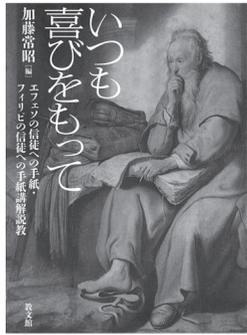
松谷好明『キリスト者への問い』
平成天皇の生前退位の意向表明を受け

て、改革派教会などの諸集会でなされ
た四つの講演が収められています。現
在も連綿と続けられている宮中祭儀の
実態や大嘗祭の問題点が分りやすく解
説され、象徴天皇制のもとの祭祀王
としての本質が具体的に指摘されてい
ます。よく知られる神学者たちが天皇
制についての神学的議論を自己規制し
ている現状にも触れられています。ま
た天皇制を支持する一部キリスト者の
動向や、皇族受洗論への期待がいかに
空しいものであるかについても周到に
言及されています。すなわち現在の象
徴天皇制は、民主主義を積極的に摂取
した大衆天皇制の装いを取りながら、
一方では戦前と全く変わらない神権天
皇制にも対応できるように備えられて
いる実態が明らかにされています。し
かし一方で、これまでのキリスト教界
の反ヤスクニ運動の取り組みやその成
果についてはほとんど触れられていな

いのが残念です。また信条やカテキズ
ムによって天皇制と対峙し得ると著者
は主張していますが、戦前・戦中の教
会の現実を考えると、果たしてそう言
えるのかと疑問も残ります。しかしコ
ンパクトであり学術書ではないので、
読みやすく、教会などでの学習会など
に相応しい一冊と言えるでしょう。
「ではどうするのか。倦まず弛まず
『十字架の言葉』を熱心に宣べ伝える
ことが、歩むべき王道です。それが同
胞の多くの人にとって『つまづかせる
もの』『愚かなもの』であっても、私
たちは『神の力、神の知恵であるキリ
スト』を宣べ伝えなければなりません。
具体的に言えば、私たちは、次から次
に欧米あるいは韓国から導入されるあ
れこれの『効果的』方法に頼るのでは
なく、代々の教会が告白してきた公同
信条にしっかりと立ち、プロテスタン
ト宗教改革の教会として、『御言葉の

伝道する説教の
モデルを示す一冊

〈評者〉 及川 信



いつも喜びをもって
エフェソの信徒への手紙・
フィリピの信徒への手紙講義説教
加藤常昭編

本書は、教派を越えた運動として成長し続ける「説教塾」創塾三十年を記念する説教集である。この説教集出版の目的は単なる三十周年「記念」ではなく、「伝道」である。

筆者は、講演会やセミナーなどに時折参加させて頂いたに過ぎない者だが、説教者らが真剣に御言葉に向き合い、加藤常昭先生の指導を頂きながら討論する姿にいつも感銘を受けていた。

この説教集に説教を寄せたのは、二八名の説教者である。それぞれに個性があることは言うまでもない。説教の印象は、自由で伸びやかであり、全く個性を隠そうとはしていない。でも自分勝手なことを語ろうとしているのかと言うと、全く違う。それぞれに、自分に与えられた箇所に記載されている御言葉に取り組み、その箇所パウロが語らんとしていること、さらにキリストが、そして神が語らんと

ていることに突き当たっているのである。それぞれの個性は、その一点に於いて収斂していると言うべきだろう。

「説教塾」では「黙想」が重んじられる。それは、「釈義から説教へ」という流れに抗してのことだろう。しかし、黙想の前には徹底的な釈義があることは、この説教集に収録されている説教の特徴である。「釈義より黙想」ではなく「黙想するための釈義」であり、その上での説教なのである。

この国では、「教会」「説教」「キリスト教」と「教え」という言葉をやたらと使う。礼拝も「キリスト教の教えを学ぶために行く」という傾向がある。筆者は、説教は、「この箇所を通して神様は今日、私たちに何を語りかけてくるのか」を聞き取ることが大事だと考えている。この説教集の中で「その神の語りかけを心開いて受け入れた時に」

を祈り願っています」（二二六頁）。真に「アーメン」である。

本書は、「伝道」を目的として出版されたことは、冒頭に語った通りだが、収録されている説教は御言葉と取り組み、黙想を繰り返すことによって、その目的に合った説教集になったと思う。説教者にとっては、優れた注解書と説教集は必須のものであるが、本書がその一冊であることは間違いのないことである。

（おいかわ・しん）日本基督教団山梨教会牧師
（四六判・四一六頁・本体二二〇〇円＋税・教文館）

（九二頁）という言葉に出会った時は嬉しかった。ある方は、極貧の中で伝道に励んでいる親に「牧師をやめようと思わなかったの？」と聞いたことがある。すると両親は「神様が今度はどうなるかをしてくれるのだろうか、ワクワクした気持ちでいっぱいだったね」（二二七頁）と答えたという。この言葉が、一人の説教者を生み出した。また、ある説教者はこう語る。「私が語る説教も、キリスト教の知識を伝えるのではなく、生けるキリストを伝えることを祈り願っています。今日、この礼拝堂で、ここにおられるお一人お一人が、生けるキリストとお会いし、救いへと導かれ、生涯、キリストと賛美しながら生き、死を迎えること

日本語で書き下ろす聖書注解、最新刊



VTJ旧約聖書注解
列王記上 1-11章
山我哲雄

ソロモンの治世を記す聖書箇所を、申命記史書の泰斗である著者が、旧約のみならず文化芸術に触れつつ解説する。
A5判・458頁・5184円

コヘレトの言葉を読もう

「生きよ」と呼びかける書
小友 聡

「コヘレトの言葉」を鮮やかに読み解き、「今の生を徹底して生きよ」という中心主題を明らかにする。 四六判・136頁・1,512円

TOMOセレクト

かんたん! たのしい!

CSわいわいアイデア集

『教師の友』編集部 編

『教師の友』掲載のすぐに使える活動アイデアを1冊にまとめた傑作選。 B5判・96頁・2,160円

井上洋治著作選集 別巻

井上洋治全詩集

詩の朗読CD付

イエスの見た青空が見たい

山根道公 編・解題 若松英輔 解説
井上神父の信仰の結実とも言える、「南無アッパ」の祈りの詩集。
A5判・252頁・2,700円

〔増補改訂版〕

魯恩碩

旧約文書の成立背景を問う

共存を求めるユダヤ共同体

旧約聖書を生んだ捕囚後ユダヤ共同体の実態を描いた力作を増補改訂。 A5判・418頁・4,536円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-ucci.jp

「物語」が生み出された
光源とは何か

〈評者〉釘宮明美



C・S・ルイスの読み方
物語で真実を伝える
A・E・マクグラス 著
佐柳文男訳

花模様があしらわれた黄緑色の潇洒な表紙が、わくわくした思いをかきたてる。それは子どもの頃、これからどんな世界が開けるのだろうかという胸を躍らせながら物語を読み耽ったあの幸福な時代の喜びに通じている。

多岐にわたる良質な神学書でおなじみの著者アリス・ター・マクグラスにとって、C・S・ルイスは「人生のメーター」と呼びうる存在だという。先立って公刊された同著者による浩瀚なルイスの評伝（邦訳『憧れと歓びの人 C・S・ルイスの生涯』（佐柳文男訳、教文館、二〇一五年））からも、その並々ならぬ関心と敬愛がうかがえる。両者ともに北アイルランドのベルファルト市で育ち、オックスフォード大学に学び、若い時期を無神論者として過ごした後、キリスト教信仰を再発見した。マクグラスがルイスの著作を初めて手にしたのは二十歳頃のこと。以後四〇年間

にわたって親しみ、都度、新たな発見があると述懐する。もしルイスと昼食を共にできたら（原題 If I Had Lunch With C. S. Lewis）、彼は何を語ってくれるだろうか……そんな趣向から生まれたのが本書であり、「人生の意味について」「友愛について」「ナルニア国」と物語の重要性「アスランとキリスト者の生き方について」「護教論の方法について」「教育について」「痛みの問題について」「希望と天国について」の七つのテーマから成っている。

児童文学——それは、かつて子どもであった大人のための文学でもある——の傑作『ナルニア国物語』の創造者であり、キリスト教思想の卓抜な表現者にして良き信仰の語り手。マクグラスはルイス作品の魅力や、「豊かさに溢れる創造の世界に導き入れ」ることで「人生および世界の意味や価値について考え直す力を与えてくれる」と評する。

これは優れて文学の魅力や語り言葉でもあろう。人は、人生の意味や意義を求めずにはいられない存在である。過酷で殺伐とした現実の世界が尚も生きるに値するものであると信じていることができるためには、皮相な現実には囚われないのではなく、より深い現実そのものの構造を把握しなければならぬ。世界を即物的に理解するのではなく、想像力を介して「異なる見方で見ると」が与えられたとき、出来事の背後にある「何のために」という意味と目的が解される。現実が再構成され、かくして「物語」が生み出される。ルイスにとっては、このレンズの光源が他ならぬキリスト教であった。

キリスト教の「大いなる物語」を核にして『ナルニア国物語』が着想されたのは、ルイスの人生が最悪の状態だったときという指摘は目を引く。ルイスが「物語」を通して伝えようとした「真実」とは何か。「真実」とは「真理」に対する人間の態度であり、それは各人が「真理」に関わるのかを究極のところを問う。歴史の中に実在したイエス・キリストという、あらゆる「物語」を生み出す原型となった受肉した「真理」を透かし絵のように浮かび上がらせながら。

（くぎみや・あけみ 白百合女子大学教授）
（四六判・二四八頁・本体三三〇〇円＋税・教文館）



教文館の本

http://shop-kyobunkwan.com/

好評発売中



世界が絶賛！ 巨匠手塚の遺作アニメ ● 本体28,500円
手塚治虫の旧約聖書物語

豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック

天地創造からイエスの誕生まで、壮大な聖書の世界を描いた全26話。世界が絶賛した聖書アニメの最高峰が、手塚治虫生誕90周年を記念して待望の復活！

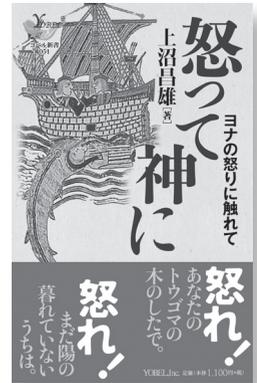
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 / 内容見本・図書目録 ● 価格は税抜

「本・批評と紹介

神の懐に飛び込む人々の心理と神のユーモラスな応答、とうごま！の

憐れみを示す希有な書！

〈評者〉 千葉 恵



怒って神に
ヨナの怒りに触れて
上沼昌雄著

カリフォルニア在住の著者上沼昌雄神学博士は毎年熊本

から北見まで巡回伝道される。聖書に対応人物を探せば、

「神のことば」に召しだされ引きずりまわされる或る一群

の人々「預言者」が挙げられよう。イザヤのような大預言

者たちとともに本書の主人公アミタイの子ヨナもその一人

である。「預言者は祭司のような定まった職ではない。

……必要などときにはどんな条件でも神のことばを聞いて伝

えていく。……いつ呼びだされるか分からないので、心の

準備というか、どのような状態でも神の声を聞いて対応で

きるようにしておくことのほうが大変だ」(二八―二〇頁)。

不可視な神に一切を捧げ、賭ける生は、もし神との懇ろな

る交わりなしには、所謂この世もあの世も失う「最も惨め

な」生と言え(一コリント15・19)。彼らの生を支える

ものはアブラハム以来の聖書の証言の真実であり、その歴

史の確かさである。

ヨナは敵国の都ニネベを滅びから救うべく神の審判のこ

とばを伝える預言者としての使命を帯びたユダヤ人の彼は、

この召命に当惑し、神の前から逃亡を計る。当然この広い

宇宙、神の前でないものはない。評者に本書の白眉と思わ

れるのは40ページ以上にわたり、三日三晩大魚のお腹です

ごすヨナと共に生き物の生暖かい生理的な律動のリズムに

あわせて暗黒のなかに過ごすその描写である。これは恐怖

ではなく「揺り籠に揺られているような、……母の胎のな

か……どこかに隠されている記憶の残滓」の「不思議な心

地よさ」(六六頁)に身を任せることになる。ヨナ自身が

自らの感覚を報告していくので、読者はヨナそして著者と

共に閉所の闇のなかで心地よい連帯感に引き込まれていく。

「あのダビデが罪を犯して神を避けて地の果て、よみにま

で下って真つ暗な闇を経験した。……逃げ切れると思っ

ていたが、その闇の中にまで神が届いていることを知るのだ。

何ということだ。神には闇も光も区別がない。闇も見通

している。……そんな神の御手を認めるときに、思いが自

然に母の胎で形づくられた自分の存在に至っている……今

真つ暗な闇の中で、そんな匂いをしっかりと思いおこしてい

る。闇の中ではよみがえって来た記憶は余計に鮮明である。

……目を通して、息を通して、皮膚を通して、毛細血管を

通して、この湿った闇はからだの芯にまで染み込んでいる。

……闇に吸い込まれる感覚になる」(六七―七〇、七二頁)。

神に召しだされた人々はこの母の胎のような神の憐れみ

深い懐に抱かれる感覚にあるからこそ、貧乏くじを引くこ

とができる。そしてこの親密さこそ、母に訴える子供のよ

怒って神に

ヨナの怒りに触れて

上沼昌雄



怒れ！あなたのトウゴマの木のしたで。怒れ！まだ陽の暮れていないうちは。聖書と神学のミニストリー代表 上沼昌雄

鎌野善三著

3分間のグッドニュースの歴史



聖書各巻の一章としての要諦を3分間で読める平易なメッセージにまとめて、大好評を博した「3分間のグッドニュース」全5巻を「聖書新改訂2017」に準拠して出版する改訂新版「弾」！毎日のティポーションの座右の書に最適！ヨシユア記エニステル記。AS判・二七二頁・一六〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・呈

あなたはどう読むだろうか。

(ちば・けい)北海道大学大学院文学研究科教授

(新書判・二三四頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル)

伝わる真の直ぐな思い

〈評者〉水口 洋



老教師の聖書レッスン
世の荒波を超えて
平塚敬一 著

本書は、長年キリスト教教育の現場に関わり、キリスト教学校の交流の中核的役割を果たしてきた著者が、現役を退いたことを契機に、親しい人たちとの交信を続けるために二〇一二年から七年にわたって発信し続けてきた文章を一冊の書物にまとめたものである。

著者は毎月、聖書の言葉をめぐる断想とその折々に起きている事柄に関する思い巡らしを、一千字にまとめて発信し続けた。第一部（七一編）では、日常的に体験してきた事実、直接出会った人物、歴史の中の人々の生き方に、聖書の言葉がどのように働いているのかを、具体的・実証的に語っている。現実を見据えつつ、闇や絶望の向こう側にある希望を語ることに励ましを受ける。

第二部（三八編）では、先人たちの言葉や行動が随所に紹介され、イエスの言葉に触発された人々が、時代を超えたいとの熱い思いがあふれている。教育には先人の知恵や知識を伝えていく責任と同時に、人格を通して人格に伝えられる価値や信念の継承の使命があるが、著者はキリスト教教育の担い手として、今後予測される困難な時代を背負っていかうとする次世代のキリスト者へ、平和への思いを込めて励ましを与えている。

本書が「老教師の聖書レッスン」というタイトルのわりに「説教臭さ」を感じないのは、生涯を教育に携わってきた著者の見識の広さと歴史家としての学識、そして何よりも若い人々と共にある幸いを体験し尽くしてきたキャリア

てつながっていること、そして現代を生きる私たちもその一員として加えられていることの喜びと責任について語られていく。

聖書の言葉を通して見えてくる真実を積み重ねた著者の思いは、実にリアルなものとして読者に伝わってくる。そしてバラバラのように見える一つ一つの発信が、地下水脈においてつながって筋の通った主張となり、驚きや納得、ある場合には社会に対する怒りや時代への警鐘が、書かれた文章から浮かび上がってくる。その場限りで消えていくネット社会に漂っている言葉とは一線を画した骨太の内容となっている。

本書には幼い頃に戦争を直接体験した最後の世代であるとの著者の思い、とりわけキリスト教教育に携わってきた者として、大事なものを次の世代の人たちに手渡していき

がそれを可能にしているのだと思われる。

当初は友人たちとの交信のつもりで毎月発信し始めた文章であったが、まとまりのある書物となったことで、世代を超えた対話が始まるような気がする。本書は著者の教える子の編集者が、「若い人に読んでもらいたい」と書籍化を促したことで形となったが、キリスト教学校や教会の青年会での読書会などでも、掲載されている百数編の断想から、分かち合い、対話が始まっていくことを期待したい。

（みづぐち・ひろし 玉川聖学院理事）

（四六判・二五六頁・本体一四〇〇円＋税・小学館スクウェア）



終末論

〈改革派教義学〉第7巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



神中心的包括的終末論を問う。すべての神学的課題は終末論へと流れ込む。終末論においてその神学の本質が姿を現す。改革派神学は神中心的包括的終末論を問うのである。

A5判・上製・函入
定価 [本体 4,500 + 税] 円
ISBN978-4-86325-052-9



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

近代西欧的な視点を補充する 霊性の歴史的伝統

〈評者〉 阿部善彦



古代ギリシア教父の霊性

東方キリスト教修道制と神秘思想の成立

久松英二著

二〇一五年の中世哲学会で拝聴した久松先生の「ギリシア教父における神化思想」(シンポジウム連動 特別報告)は、限られた発表時間であったにもかかわらず、その背後に濃密かつ膨大な研究の蓄積をうかがわせるものであった。以来、研究の全体像が明らかになる日を心待ちにしていたが、このたび本書によって期待をはるかにまさるかたちでその願いがかなえられてうれしい。

本書はタイトルにある「霊性」「東方キリスト教」「修道制」「神秘思想」という用語・概念の検討から始まる。キリスト教信仰の歴史とともに形をとってきたこれらの言葉が、あまりにもあいまいに、不用意に使われるキリスト教史の記述がまだあふれる中で、本書「序」におけるその入念な検討は意義深く感じる。その際「霊性」の意味するところは、教理的・神学的キリスト論の発展とともに深め

信頼し従順に生きることである。

初代教会においてそれは「殉教と純潔の霊性」として現れ、そこから「修道制」が生まれる。それは生命の否定ではなくイエスを通じて同じ神的生命に子として与えることである。「わたしが来たのは、羊が命を受けるため」(ヨハ一〇・二〇)と述べるイエスが「ぶどうの木」(ヨハ一五・四)となり、同じ神的生命につながる者たちを神の子らとする受肉の神秘の成就である。この「神秘的一致」にイエスを通じて与りゆくことが「洗礼」「聖餐」そして「神化」「観想」として、教父たちの「神秘思想」によって主題化される。それらは同時に「修道制」に見られる全身全霊の「修徳アスケーシス」に結束し、「修道制」と「神秘思想」はともに、福音を源泉とした「霊性」において、子を通じて聖霊の導きの中で父に向かう「三位一体の神に向かう人間のあり方」として歴史的伝統の中に現れる。

本書はその一連の展開を明快な説明と綿密な検討により提示し、霊性、修道制、神秘思想をめぐる卓越した関係理解を以下の構成をもって示す。

第一部キリスト教霊性思想の源泉 第二部キリスト教神秘思想の源泉 第三部東方キリスト教修道制の成立(エジプトの修道制 砂漠の師父) 第四部カッパドキア三教父

られた人間論と、生命の息吹としてかよう聖霊論の観点にもとづいて、キリスト教史の伝統の内部に位置づけられ、「三位一体の神に向かう人間のあり方」とされる。三位一体の神を求めてどこまでも歩み行く人間の全身全霊のその道行きは、したがって、人間の宗教性における具体的行為・実践・経験・思想のすべてを通じて主題化され、追求、探求されることになる。そしてその全身全霊的道行きが本書サブタイトルにある「修道制」と「神秘思想」を通じて、東方キリスト教霊性の歴史的伝統の中にかたちづくられてゆくのである。この東方キリスト教の歴史的伝統は福音にもとづいている。すなわち「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マタ五・四八)とイエスが招く父に向かつての完徳の教えであり、イエスに倣い「子供のように」(マタ一八・三)父を

の霊性 第五部東方修道神秘思想の成立(エウアグリオスマカリオス文書集) 第六部東方神化思想の成立

本書は、霊性の聖書の基盤を押さえ、「神秘思想の源泉」「修道制の成立」を個別に見てから、その一体的な展開をカッパドキア三教父、東方修道者、神化思想に即して論じている。丁寧に項目が立てられ、最新研究状況から批判校訂版や翻訳・文献について有益な情報が註で提供される。その意味で研究者必読・必携の書でもあるが、教父的「霊性」に近づき、聖書理解とキリスト者としての生き方を深め、研鑽する霊的読書や勉強会にも広く役立つだろう。また「あとがき」に記された著者の研究の姿勢や宗教(諸宗教)をみつめるまなざしにもぜひとも注目されたい。

日本のキリスト教は近代西欧の影響が強い。しかし、その近代西欧は、東方の霊性、修道制、典礼、神化思想を断片的に、ヘレニズム的、異教密儀的、魔術的であると見下す誤解から脱しきれず、その偏見無知は、そのまま日本語に訳された有名な教会史の記述によって伝播した。その中で本書が日本で生まれ多くの読者を得ることの意義は計り知れない。

(あべ・よしひこ)立教大学文学部キリスト教学科・准教授
(A5判・三二〇頁・本体三八〇〇円+税・教文館)

あなたかく優しい言葉で導く

〈評者〉望月麻生

始まりのことは

聖書と共に歩む日々 366
片柳弘史



始まりのことは

聖書と共に歩む日々 366

片柳弘史著

片柳神父の紡ぐ言葉の底には、優しさが流れている。それはこの時代に生きる人たちが必要としている優しさのなただと、私は感じる。

前作である『こころの深呼吸』はインターネット上で公開していたメッセージが反響を呼んで生まれたものと聞く。私も時折神父のメッセージを画面越しに見かけた。ネット上で、誰かの人生をたたきつぶすようなひどい言葉を目にするのは日常茶飯事である。この画面上の世界は人をつなぐためのものであったはずなのに、絶えず「炎上」し、誰かが踏みまじられている。その中に片柳神父の言葉は存在し、多くの人たちがその言葉に支えられた。自分のメッセージをSNSにアップしている神父・牧師はたくさんいるが、それらのうち、誰かの心の深くまで届く言葉は一体どれほどあるだろうか。人の心に語りかけることが、特に

インターネットを通して言葉に出会うことの多い今、たやすいように感じてそうではないことを思われる。ふと、マザー・テレサの祈りを思い出す。「主よ 今日一日 優しいことばに飢えている人々と語り合うために 私の声をお望みでしたら 今日私のこの声をお使いください。」
本著『始まりのことは』は片柳神父が一日ひとつ、合わせて三六六の言葉を聖書から選び、そこに短い説教をつけたものである。教会の暦に沿って選ばれているが、どこから読んでもいい。

そうだ、あの感覚に似ているのだ。私と聖書との付き合いは、キリスト教主義の中学校に入ってから始まった。よく、聖書を適当な場所から読んだものである。目を閉じて聖書を開き、そのページをとりあえず読んでみた（開いたら目次だったこともしばしば）。そのときの感覚を、このように書いてくれる。なんとというか、片柳神父が聖書を一緒に読んでくれている感じがして寂しくないのだ。聖書は誰かと一緒に読むものでもある。独りで読むと挫折してしまうけれど、一緒に読んでくれる人がいたら、独りで読む以上に新しい発見や深い気づきが与えられる。それが聖書という不思議な書物だ。本著を通してよくわからない聖書の言葉に出会っても、片柳神父のことはと一緒には味わってみたら、すばらしい経験になるだろう。そして、神父の言葉はあたたかく、優しい。

（もちづき・あさを 日本基督教団足利教会牧師）
（A6判・三九〇頁・本体九〇〇円＋税・教文館）

本を開くときに思い出した。でも、一人で適当に開いて読んでみても、よくわからなかったのが正直なところだ。「始まりのことば」はそこが大いに違う。イイカゲンな人間である私は、これまた適当にこの本を開いてみた。そこには一日ひとつ分の聖書の言葉。選ばれた聖書のことばが、また良い。教会にしばらく来ていけば一度は見聞きしているものだけではなくて、こんな箇所あったかなと牧師十年目の身を焦らせるものもよく登場する。エチオピアの女王カランダケの高官が使徒フィリポに言ったように、私も眩いしてしまう。「手引きしてくれる人がいなければ、どうしてわかりましょう」と（使徒八・三一）。そこは安心、ちゃんと片柳神父が、短いながら凝縮されたメッセージを用意して



新刊
死生学年報
2019

死生観と看取り

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製 本体2500円＋税

『聖書』が「看取り」について
語ること
佐々木 啓

イスラームにおける死
鎌田 繁

ホロコーストを語ること
丸山空大

メソポタミアのマクルー儀礼
にみる死と再生
細田 あや子

賀川豊彦とハンセン病文芸
松岡秀明

メソポタミアの「冥福」観
渡辺和子

高齢多死社会の
看取り現場からの報告
奥野滋子

臨床仏教師の役割
神 仁

天理教の死生観と看取り
白木原 嘉彦

他、5篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

魂の底からの呼びかけに 私たちはどう応答？

〈評者〉 山口里子



サビールの祈り
パレスチナ解放の神学
ナウム・アテイク 著 岩城 聡訳

教文館

サビールの祈り
パレスチナ解放の神学
ナウム・アテイク 著
岩城 聡訳

ナウム・アテイク氏が発信する『パレスチナ解放の神学』は、他の様々な「解放の神学」と共通して、この世の不正な社会構造で弱くされた人々の人権・尊厳・希望を回復するための連帯を訴えます。

「パレスチナ」という言葉がつけられたのは、一部のシオニスト運動から始まった二〇世紀のイスラエル建国とパレスチナ占領の現実、そこにおける著しい暴力の長期化の中からパレスチナの正義と平和を求める、特定の足場があるからです。

パレスチナ人は、自国に住みながら基本的な人権も踏みにじられて、日常的に生活が破壊され生命が奪われ続けています。更に、そのような「民族浄化」の暴力行為が、聖書に示された「神の約束の成就」として宗教的に正当化されることで、苦しみを一層深められている現実があります。

ります。

このような現実の中で、『サビールの祈り』は、シオニストたちの聖書解釈に対抗して、同じパレスチナの地に生きたイエスの生き方を学び直すことを通して、正義・非暴力・平和・和解・解放への「道」（サビール）を後押しする聖書解釈を提示しています。

そこには、いのちの大切さを魂の底から訴える祈り、正義と愛を実践する生き方こそが神に求められている人間の「道」であることを訴える熱い思いが、込められています。そして世界中の人々に、パレスチナの現実を目を向けること、正義に基づく平和の実現に向けて連帯して行動を起こすことを、穏やかさの中で強く呼びかけています。

今や、イスラエル建国から七〇年以上たち、問題は複雑化し、パレスチナの人々の苦しみは悪化し続けています。もはや「知らなかった」では済まされない同時代に生きる私たちには、何が問われているでしょうか？ 魂の底からの叫びに真摯に耳を傾けて、共苦をもって応答することではないでしょうか？

私の認識では、イスラエル建国に際しては、パレスチナ人を「難民」にさせるとして、最初から世界中のユダヤ人が反対の声を挙げました。けれども、政治的・経済的損得計算を陰に隠して、巨大な資金が軍事面でも情報面でもイスラエル支援に使われてきています。

更に、「イスラエル国家＝ユダヤ人国家」と主張される中で、「反ユダヤ主義者」と思われたくない人々や、宗教には干渉すべきでないと考える人々は少なくありません。こうして、パレスチナ民衆の日常生活の虐殺・悲劇の実態が知られないまま、或いは誤解されたまま、世界中の沈黙が続いています。

一方、パレスチナにおいては、圧倒的多数の人々が同じ聖書を聖典として信仰の基盤にしているゆえに、抑圧者側の聖書解釈・信仰に正面から反論するのが難しい状況がある。

最後に、聖書学を学ぶ者として一つだけ注意を指摘したい点があります。著者は、苦難の中に居る人々に寄り添い、正義を求めて全力で闘ってきたゆえかと思いますが、抑圧者側の聖書解釈は間違いで自分たちの聖書解釈は正しいと示しているように受け取れる面があります。

しかし人間のすることはどれも不完全です。聖書の中にも、特定の歴史状況での民族・身分・性・障碍などに基づく差別的な見方が至る所に浸み込んでみると、広く指摘されています。そして私たちの聖書解釈にも、神理解にも、常に「欠け」があります（参照：山口里子『いのちの糧の分かち合い』第8章「パレスチナの平和を願って」新教出版社、二〇一三年）。

このことを踏まえて、自分の経験とは異なる差別と闘っている人々の「声」から学びつつ、いのち・人権・尊厳を大切にして希望の未来に向かう、多様な「共生」への連帯が広がることを願います。

（やまぐち・さとこ）日本フェミニスト神学・宣教センター共同
ディレクター

（四六判・二六六頁・本体三二〇〇円＋税・教文館）

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsoyo.or.jp>

2018年11月号

巻頭エッセイ：「このあと どうしちゃう」で どうしちゃう 鈴木 光		
旧約新約聖書ガイド	A.E.マクグラス著、教文館	山本 芳久
宗教改革の現代的意義	日本キリスト教文化協会編、教文館	出村 彰
アレクサンドリアのクレメン ストロ マティス(綴織)Ⅱ	秋山 学訳、教文館	阿部 伸麻呂
アレティア ローマの信徒への手紙	日本キリスト教団出版局編	柳谷 知之
カール・バルト	福岡 揚著、日本キリスト教団出版局	佐々木 潤
続 この器では受け切れなくて	菊地 譲著、ヨベル	鈴木 正三
カルヴァン研究―特集 ものとしし	ヨベル刊	関川 泰寛
香りの舟	柴崎 聰著、土曜美術社出版販売	中村 不二夫
キリスト者への問い	松谷好明著、一麦出版社	富永 憲司
長老制とは何か	澤 正幸著、一麦出版社	深谷 松男
1冊でわかるキリスト教史	土井健司他著、日本キリスト教団出版局	阿部 善彦
絵画と御言葉	吉田 実著、一麦出版社	町田 俊之

2018年10月号

巻頭エッセイ：キリストの道を歩く日本人の足に合った靴 山根道公		
クエーカー入門	ピンク・ダンデライオン著、新教出版社	山本 通
十字架の道を辿る	スハ・ラッサム著、キリスト新聞社	中田 智之
伝道のステップ1、2、3	鈴木 光著、日本キリスト教団出版局	深谷 与那人
魚にのまれたヨナのおはなし	ピーター・スピーア著、日本キリスト教団出版局	友野 富美子
ヒエロニムスの聖書翻訳	加藤哲平著、教文館	小高 毅
発達障害サポート入門	古荘純一著、教文館	大澤 宣
ティリッヒと逆説的合一の系譜	菊地 順著、聖学院大学出版会	安 酸 敏 真
宗教改革2.0へ	松谷信司編著、ころから	富田 正樹
十字架のキリスト以外に福音はない	近藤勝彦著、教文館	高橋 潤
神に愛された女性たち	大嶋裕香著、教文館	岩田三 枝子
エフェソ書を読む	石田 学著、新教出版社	藤原 導夫

2018年9月号

巻頭エッセイ：創造・救済のわざと人間 田島 卓		
迷える社会と迷えるわたし	香山リカ著、キリスト新聞社	藤 掛 明
悪と神の正義	N.T.ライト著、教文館	横 田 法 路
金の子牛像事件の解釈史	大澤耕史著、教文館	勝 村 弘 也
オリゲネス イザヤ書説教	堀江知己訳、日本キリスト教団出版局	小 高 毅
被災後の日常から	川上直哉著、ヨベル	齋 藤 篤
南島キリスト教史入門	一色 哲著、新教出版社	後 藤 聡

2019年2月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：内戦下スリランカでの出会い 志村 真		
エッセイ：『伊豆・川奈に導かれて』を上梓して 山本文夫		
わたしの信仰	アンゲラ・メルケル著、新教出版社	木村 護 郎 クリストフ
一分間の黙想 心からの祈り	カレン・ムーア著、日本聖書協会	武田 なほみ
ヨハネ福音書入門	R.カイザー著、教文館	伊 東 寿 泰
神についていかに語りうるか	W.シュスラー編、日本キリスト教団出版局	片 柳 榮 一
子どもとつむぐものがたり	小嶋リベカ著、日本キリスト教団出版局	加 藤 純
宗教改革期の芸術世界	上智大学キリスト教文化研究所編、リトン	山 田 香 里
教会の政治 キリスト教会の礼拝	吉岡 繁著、一麦出版社	吉 平 敏 行
ユダヤ人の歴史と思想	黒川知文著、ヨベル	金 井 新 二
良く生きる手がかり12	廣瀬 薫著、ヨベル	村 山 順 吉
イエスに迫る	渡辺英俊著、ラキネット出版	小 海 基
宗教改革500周年とわたしたち 5	ルター研究所編、リトン	白 川 道 生

2019年1月号

巻頭エッセイ：「横軸」を通して「縦軸」を知る 齋藤 篤		
特別記事：『聖書ものがたり ノアの箱舟』作者 金斗鉦さんに聞く		
遠藤周作による象徴と隠喩と否定の道	兼子盾夫著、キリスト新聞社	金 承 哲
剣を収めよ	ジョン・ディア著、新教出版社	金 井 創
イエスのたとえ話の再発見	ヨアヒム・エレミアス著、新教出版社	廣 石 望
復讐 聴講五年	斎藤宗次郎著、教文館	鈴 木 範 久
社会の苦痛と共に歩む教会をめざして	鶴ヶ岡裕一著、キリスト新聞社	濱 野 道 雄
初代教会と現代	湊 晶子著、教文館	永 田 竹 司
キリスト教信仰のエッセンスを学ぶ	小笠原優著、イー・ビックス	阿部 伸麻呂
「筑豊」に出会い、イエスと出会う	犬養光博著、いのちのこば社	小 柳 伸 顕
暴力の世界で柔和に生きる	S.ハワーワス他著、日本キリスト教団出版局	太 田 勝

2018年12月号

巻頭エッセイ：山谷からの眼差し 菊地 譲		
聖書翻訳者ブーバー	堀川敏寛著、新教出版社	田 島 卓
教えてバスターズ!!	朝岡 勝他著、キリスト新聞社	増 田 将 平
エレミヤ書を読む	左近 豊著、日本キリスト教団出版局	朝 岡 勝
うつくしいもの	八木重吉詩、日本キリスト教団出版局	沢 知 恵
今さら聞けない!? キリスト教	黒田 裕著、教文館	吉 田 雅 人
子どもの賛美歌ものがたり	大塚野百合著、教文館	塚 本 潤 一
ルターはヒトラーの先駆者だったか	宮田光雄著、新教出版社	佐 藤 司 郎
わたしはよろこんで歳をとりたい	イェルク・ツィンク著、こぐま社	大 澤 秀 夫
暴力と人間	工藤信夫著、ヨベル	坪 井 節 子
契約があらわすキリスト	O.P.ロバートソン著、ヨベル	水 草 修 治
巡礼歌	牧野信成著、一麦出版社	大 石 周 平

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yokohama-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshita.cococan.jp/	nagoya-seibunshita@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区西原字翁張777	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

四六判・180頁・本体1800円

すことの重要性を考える。

聖書に出てくる植物を化学者ならではの視点で紹介する楽しいエッセイ。現地の植生と薬用成分、暮らしの中の利用法、仏教・神道との関わりまで、はばひろく語る――

A5判・260頁・本体1800円

堀内 昭著

■教文館

聖書の植物よもやま話

■日本キリスト教団出版局

シリーズ和解の神学

G・ジョーンズ／C・ムセクラ著
岡谷和作／藤原淳賀訳

赦された者として赦す

わたしたちは、どのようにしたら人を赦すことができるのだろうか。ルワンダ大虐殺で父親と親族を亡くしながらも、アフリカにおいて平和と和解の働きに取り組む牧師ムセクラと、和解の神学を説くジョーンズが、対話をしながら赦すことの重要性を考える。

A5変型判・予価3200円

INFORMATION

近刊情報

愛し、愛される中で

――出会いを生きる神学

榎本てる子著

霊性と牧会カウンセリングの専門家、榎本てる子氏が、2018年春、五五歳で天に召された。読者の心に届く論文や説教、そして死の直前まで病床で自らの思いを記し続けた文章をまとめた。「愛し愛される中で、人が変わり、成長し、癒されること」を求めた旅路の記録。

A5判・208頁・本体1800円

山下壮起著

ヒップホップ・レザレクション

――ヒップホップとキリスト教

今や世界的大衆文化となったヒップホップ。その最初の担い手であったアフリカ系アメリカ人における宗教的機能を探り、ヒップホップと既存のキリスト教会との関係や聖俗観・救済観を検討する。気鋭の神学者による注目作。

福音と世界

2019年5月号

特集 老いをいかに生きるか

寄稿者 関田寛雄、横田幸子、
中村正俊、天田城介、永易至文

好評連載 バビロンの路上で Condemned to a Life
of a Preacher Man (ムニエル・ヤン)、神の酒(石
井光太)、テモテ書(辻学)、福音書記者たちの
饗宴(松本あずさ)、遺跡が語る聖書の世界(長
谷川修)、わたしはロックがわからない(山口
政隆)、聖書とわたし(松居直美)ほか

A5判・本体 588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から



五〇人の命を奪った惨憺たる事件がニュージーランドのモスクで起きた。移民を狙ったヘイトクライムだと言われており、障がい者へのヘイトクライムと言われる「津久井やまゆり園」での悲劇を思い起こさせた。ご存じのとおり日本もヘイトと無縁ではない。三月にも京都でヘイトデモがあり、警護していた警察とデモに反対するカウンターの人たちが衝突する動画が拡散された。規制によりヘイトデモで発せられる言葉は時期より幾分穏やかになったそうだが、ネット上にはいまだ特定の民族や人種、性的指向への差別的な書き込みが溢れかえっている。残念ながら、書店にもヘイト本と呼ばれるフェイクニュースを垂れ流す本が平積みにされていたり

本・批評と紹介

予告

本のひろば

2019年6月号

ペーター・ライヘンバツハ監督「DVDカール・バルトの愛と神学」、鎌野善三著『3分間のグッドニュース(歴史)』、新免 貢著『「新」キリスト教入門(1)』、朝岡 勝著『教会に生きる喜び』、住田博子著『カルヴァン政治思想の形成と展開』、『アレティア 死に勝つ慰め』、塩谷直也著『視点を変えて見てみれば』他

する。ヘイトやフェイクの言葉だけでない、「わたしなんか生まれてこなければ」……ときに自分自身に向ける言葉すら、命や真実を損なおうとする。

以前担当した書籍の著者がこれを「言葉の危機」と表してくれた。そんな言葉の危機に抗い、言葉に対する感覚を取り戻す「真の書物」との出会いを届けること、本誌の使命のひとつはここにあると思っている。前号から始まった、この時代に読むべき本をテーマごとに紹介する新連載「この三冊!」はいかがだろうか。引き続き原理主義や平和、グリーンフェア、スプリチュアリティ、LGBTなど、社会と教会にとって必要なテーマをピックアップしている。ここで紹介される本に触れるとき、言葉に対する感覚を取り戻せる。そんな地の塩としての誌面をめざしていきたい。(桑島)

評伝 矢内原忠雄

関口安義 (都留文科大学名誉教授)

一一〇〇枚の大作!

4月20日

実証的経済学者として帝国日本の植民地経営を批判的に分析し、軍国主義と対決して野に退き、独立伝道者となり、戦後は東大総長として再建日本の精神的指導に挺身した無教会キリスト者。その激動の生涯を綿密な調査と膨大な資料を基に描きあげた矢内原評伝の決定版。

◆A5判・本体8000円

橋をつくるために

現代世界の諸問題をめぐる対話

教皇フランシスコ、ドミニック・ヴオルトン／戸口民也 訳

4月20日

戦争、貧困、環境、難民、アイデンティティと伝統、異なる者同士のコミュニケーション、教会のあり方などをめぐり、著名な社会学者が1年間12回にわたりに行った興味尽きないロングインタビュー。

◆四六判・本体2600円

カール・バルトとエキュメニズム

佐藤司郎 (仙台北三番丁教会牧師)

一つなる教会への途

初期から晩年にいたるエキュメニズム観の変遷をテキストを通して綿密に辿り直し、バルト神学の根本テーマを解明した力作。

◆A5判・本体3500円

ヤスパースとキリスト教

岡田聡 二〇世紀ドイツ語圏のプロテスタント思想史において

実存哲学の高峰とキリスト教との「近さ」と「遠さ」の意味を、ブルトマンをはじめとする同時代人との関係から読み解く。

◆四六判・本体2500円

▼注目!

新教出版社編集部編

統べるもの

／ 叛くもの

統治とキリスト教の異同をめぐって

ジェンダー、セクシュアリティ、クイア、アナーキー等を手がかりに、気鋭の論者による論考と白熱のトーク。佐々木裕子・堀江有里・要友紀子・白石嘉治・栗原康・五井健太郎。

◆四六判・本体2200円

▼好評既刊!

ドイツ・ニーランド研究

世俗化された天国への巡礼

宮平望 (西南学院大学文学部教授)

◆A5判・本体2000円

旧約聖書入門3

現代に語りかける出エジプトと契約

大野恵正 (活水女子大学名誉教授)

◆小B6判・本体1900円

神学者と実践家が和解について語り合うシリーズ、完結！

最終回
配本



シリーズ〈和解の神学〉全3巻

赦された者として 赦す

G. ジョーンズ/C. ムセクラ
岡谷和作/藤原淳賀 訳

日本のキリスト者が、この課題に向き合うために

わたしたちは、どうすれば赦すことができるのか。ルワンダ大虐殺で父親と親族を亡くし、アフリカにおいて和解の働きに取り組む牧師ムセクラと、和解の神学を説くジョーンズが、赦すことの重要性を考える。

2019年4月25日刊行 四六判 並製・予180頁・1,944円

シリーズ好評発売中



暴力の世界で 柔和に生きる

S. ハワース/J. バニエ
五十嵐成見/平野克己/
柳田洋夫 訳
四六判・152頁・1,728円



すべてのもの との和解

E. カトンゴレ/C. ライス
佐藤容子/平野克己 訳
四六判・216頁・2,160円

型破りな実践神学者が遺した、心深くに届くメッセージ集

愛し、愛される中で 出会いを生きる神学

榎本てる子

2018年春、55歳で天に召された榎本てる子氏の論文や説教、死の直前まで病床で記し続けた思いを収録したメッセージ集。「愛し愛される中で、人が変わり、成長し、癒されること」を求めた旅路の記録。

2019年4月19日刊行 四六判 並製・208頁・1,944円



発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 デザイン 桂川 潤 印刷所 榎平河工業社
発売所 日本キリスト教出版株式会社 電話03-3333-6001 振替0017-0151-1679

定価七八円(税抜七二円) (予62円)
一年分一三〇〇円(送料共)